

## 仕掛学のおさらい

5章で紹介する仕掛けの事例からわかるように、つい行動してしまうきっかけになるものを著者は「仕掛け」と呼んでいる。しかし、いざ仕掛けをつくらうと思ったときに、どうすれば仕掛けをつくれるのかわからないし、どのような勉強をすれば仕掛けをつくれるようになるのかもわからない。そこで、人の行動を促す仕掛けの体系的な理解を目指す学問分野として、仕掛学を提唱した<sup>2)</sup>。

本章では前著『仕掛学』の内容をおさらいし、次章以降で新たに得られた知見と仕掛けの事例について述べる。

## 行動の選択肢

仕掛けは従来の行動の選択肢を残したまま、新たな行動の選択肢を追加するもので

ある。「大阪環状線総選挙」(仕掛け20、138ページ)の例でいうと、エスカレーターという従来の選択肢に、投票できる階段という新たな選択肢を追加したことになる。

従来の行動の選択肢を残すのは、行動変容を強要しないようにするためである。階段で投票できるからといって、階段を使わないといけないわけではない。興味を持つてくれた人だけが階段を使えるようにすることで、仕掛けを無理なく社会に導入することが可能になる。

行動変容を強要することは実は簡単である。従来の行動を取れなくすればよい。たとえば、エスカレーターではなく階段を利用してもらいたいのなら、エスカレーターを止めてしまえばよい。ヘルシーな食事を摂ってほしいければ、ヘルシーな食事しか提供しなければよい。もしくは、ルールや罰則を追加するアプローチもある。ポイ捨て問題をなくすためにポイ捨てを禁止する条例を定めることは実際に行なわれているし、軽犯罪法第1条27号の違反にもなる。

しかし、これらはいずれも相手を不快にさせるアプローチであり、避けられるなら避けるべきであろう。したがって、仕掛学では従来の選択肢は残しつつ、それよりも

魅力的な選択肢を用意することを考える。

人には変化を避けたり未知のものを避けたりする「現状維持バイアス」<sup>3</sup>がある。したがって、基本的には従来の行動が選ばれ、新たな行動は選ばれにくい。新たな行動はわざわざ選びたくなるような工夫が必要になる。

## FAD要件

仕掛けという言葉は日常的にもよく用いられる言葉なので、仕掛学における「仕掛け」なのかどうかを区別できる基準が必要になる。そこで仕掛学では、仕掛けが満たすべき要件として、公平性 (Fairness)、誘引性 (Attractiveness)、目的の二重性 (Duality of purpose) の頭文字をとったFAD要件を提唱している<sup>1</sup>。

公平性は、仕掛けによって誰も不利益を被らないことである。誰かが損をするものは仕掛けではない。詳細は3章で述べるが、仕掛けは利己的な目的と利他的な目的を

同時に満たすものなので、自分だけが便益を得ているように見て実は他人も便益を得る仕組みになっている。また、仕掛けはネタバレ推奨（これも詳細は3章で述べる）なので、ネタバレしたときに不快感を与えないことが重要である。これらの要件を満たす前提として公平性が必要になる。

誘引性はついしたくなる性質を備えているということである。仕掛けは新しい行動の選択肢を追加するが、ついしたくなる要素がなければ選ばれない。マジックハンドでポケットティッシュを配る（仕掛け24、150ページ）と受け取りたくなるのは、誘引性があるからである。なお、「誘引」は人を誘い入れること、「誘因」は誘引の原因であり、意味が異なるので使い分けている。よく間違われるが、仕掛学では「誘引性」を用いる。

目的の二重性は、仕掛ける側と仕掛けられる側で目的が異なるということである。マジックハンド配りの場合、仕掛ける側の目的は広告したい（のでポケットティッ

シユを受け取ってほしい)、仕掛けられる側の目的はマジックハンドで配っている理由が気になる(のでポケットティッシュを受け取ってみたい)、となり両者は異なる。しかし、どちらの目的であっても結果的にポケットティッシュを受け取るという行動は同じになる。

このような、一見すると目的は異なっているが結果的に同じ行動を取るときに目的の二重性があるという。つまり、目的の二重性は与えられた問題を別の問題にすり替えることで解きやすくするアプローチであるといえる。

【著者紹介】

松村真宏 (まつむら なおひろ)

1975年大阪生まれ。大阪大学基礎工学部卒業。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。2004年より大阪大学大学院経済学研究科講師、2007年より同大学准教授、2017年より同大学教授、現在に至る。2004年イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校客員研究員、2012～2013年スタンフォード大学客員研究員。趣味は娘たちを応援することと、猫のひじきと遊ぶこと(遊んでもらうこと)。

実践仕掛学

問題解決につながるアイデアの作り方

2023年12月5日発行

著者——松村真宏

発行者——田北浩章

発行所——東洋経済新報社

〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町1-2-1

電話 = 東洋経済コールセンター 03(6386)1040

<https://toyokcizai.net/>

装丁……………松田行正+倉橋弘(マツダオフィス)

本文デザイン・DTP……………二ノ宮匡(nixinc)

印刷……………図書印刷

編集協力……………パブリカ商店

編集担当……………宮崎奈津子

©2023 Matsumura Naohiro

Printed in Japan

ISBN 978-4-492-22414-4

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は、著作権法上の例外である私的利用を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してコピー、スキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁本はお取替えいたします。